

平成 31 年度

# 入 学 試 験 問 題

帰 国 生

## 国 語

- 1 問題用紙は<sup>かんとくしゃ</sup>監督者の指示があるまでは開いてはいけません。
- 2 開始のチャイムが鳴ったら、最初に問題用紙と解答用紙に受験番号と氏名を記入して下さい。
- 3 答えはすべて解答用紙に記入して下さい。
- 4 記述で答える問題は、特に指定のない場合、<sup>くとうてん ふごう</sup>句読点や符号は一字として数えるものとします。
- 5 問題は 1 ページから 13 ページまであります。

受 験 番 号		氏          名	
------------------	--	--	--

森村学園中等部

一次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

みんなは直接であれ、ネットを通じてであれ新聞やテレビのニュースを目にしたことがあると思う。(中略)そこで心に留めておいてほしいことがある。

① メディアはどれも偏<sup>かたよ</sup>って見えるということだ。

フエイクニュースを意図的に振りまくメディアは論外としても、事実をもとに報じているメディアとて、そこにももの見方や分析<sup>せき</sup>を織りこめば、どうしても特定の立場に\*荷担<sup>かたん</sup>しているように感じられるだろう。

もちろんテレビと新聞の違い<sup>ちが</sup>はある。テレビは公共の電波をあくもたずかるため放送法という法律に縛<sup>しば</sup>られているとか、いろいろ前提は異なるし、守るべきルールもある。どこかの政党を一方的に応援<sup>おうえん</sup>したり、根拠<sup>こんきよ</sup>なく攻撃<sup>こうげき</sup>したりするなどあつてはならない。だからといって偏<sup>ひとへ</sup>って見えることを恐<sup>おそ</sup>れて、起きたことをただ伝えるだけになつたとしたら、報道の役割を果たしているとは言えないのではないだろうか。

② この問いをばくはこれまで何度も心のなかで繰<sup>く</sup>り返<sup>かえ</sup>してきた。そうした中で一番しつくりきた言葉は、社会学者である小<sup>お</sup>熊<sup>くま</sup>英<sup>えい</sup>二<sup>じ</sup>さんが二〇一六年二月に朝日新聞の「あすを探<sup>さぐ</sup>る」というコーナーで話していたものだ。

もしあなたが、体調が悪くて医者にかかったとする。それなのに医師が「発疹<sup>ほっしん</sup>が出ますね」「熱が三九度ありますね」としか言わなかったらどう思うだろうか。

たぶん医師にこう言いたくなるはずだ。「要するに自分は何の病気で、どう治せばいいんですか？」

③ 小<sup>こ</sup>熊<sup>くま</sup>さんは 報道の仕事も同じだと言う。「政府はこう述べています」、「野党はこう主張しています」といった報道姿勢は、無難ではあるけれど、役割放棄<sup>ほうき</sup>と言えるのではないか。報道機関の人間は幅広<sup>はばひろ</sup>く情報を集め、それを理解しやすく提示するための専門的な訓練を受けている。だから情報をただ垂れ流すだけでなく、「何が起きているかを診断<sup>しんだん</sup>し、放置すれば悪化することを警告するのは、社会に必要な役割であり、報道の④「公正」なあり方である」。

報道関係者は医師のような専門職ではない、だから医師とは違うと考える人もいるだろう。でも小<sup>こ</sup>熊<sup>くま</sup>さんは指摘<sup>ししてき</sup>する。たとえば

八百屋は野菜を、電気屋は家電製品を扱う専門職、社会はそれぞれがそれぞれの専門職にふさわしい仕事をするこゝでなりたっている。報道機関が情報をただ流すだけで、専門職としての役割を果たしていると言えるだろうか、と。

ただ流すだけでなく、問題点を指摘し、これを放置すれば社会に悪い影響を与えるのではないかといった分析や指摘をすると、視聴者や読者の中から偏った見方だという声があがるだろう。もちろん報道の人間も時に的外れな指摘をしまったりすることもある。

「しかし」と小熊さんは言う。「現代の視聴者や読者は、特定の報道機関の言うことを何でも信じるほど愚かではない。疑問を感じれば、医者の場合と同じく、セカンドオピニオンを求めて他の機関の報道に接するだろう。それを判断するのは国民であつて、政府ではない。そうした意味で、報道の□□を保障することは、何よりも重要である」

(中略)

そうしたことを知つたうえで、みんなにはぜひ自分がどうメディアに接するかを考えてほしい。

(中略)

メディアとどう付き合うべきか。そう聞かれると、ぼくは時に、こう答えてきた。

「メディアを信じるな」

メディアが伝えることを常に疑い、自分の頭で考えることが最も大事だと言いたかつたんだ。⑤でも最近、自分のなかでその思いが少し形を変えてきている。

もしぼくが今、みんなに「メディアを信じるな」と言つたらどう思うだろう。そんなこと言われなくてもわかつてるよ、という反応が少なくないのではないだろうか。

実感としても

⑥二〇一一年の東日本大震災のころから、メディアは本当のことを伝えないと感じる人が増えている。これまで

経験したことのない原発事故が起きて、目に見えない放射能への不安をつのらせているとき、「ただちに人体や健康に影響を及ぼす数値ではない」という政府の見解を、メディアは大本営発表のようにただ流していたという批判を浴びた。ただちに影響がないということは、将来は影響が出てしまうという意味なのか、疑心暗鬼になつてしまうのも無理はない。家族の命がかかっている

のだ。

当時、特別番組の進行役をしながら、<sup>⑦</sup>じりじりとした思いでいたのを覚えている。政府の見解について放射能の専門家に聞いても、その答えはバラバラだったのだ。逆に言えば、放射能の影響については専門家ですらわかっていないことが多い、特に低線量被曝<sup>ひばく</sup>はまだ未解明な分野だということが話を聞きながらわかってきた。

放送ではそのことを正直に伝え、様々な見方を提示するのが精一杯<sup>せいいつぱい</sup>だったように思う。不安な思いから確固たる答えを欲している人からしたら、はつきりしてくれよといらだつ思いだっただろう。

それに対して、ネット上では放射能の危険性をもっと言い切る\*言説が飛び交った。その中には後から振り返れば、間違っていたものもたくさんあるだろう。ただ裏付けをとって流すのが基本であるメディアの慎重<sup>しんちゆう</sup>さがじれつたく感じられたであろう一方で、ネットのほうが自由で有益な空間に思えたことは想像に難くない。

そのころからだと思う。「大手メディアが伝えない真実」という類いのタイトルの記事が、週刊誌やネットで目につくようになった。今やこうしたタイトルを見ない日はないほどだ。

こうした中で「メディアを信じるな」と言ったら、何が起きるだろう。

ただでも大手メディアを信じない、新聞もテレビも見ないという若者が増えていくなかで、さらにメディアに目もくれない人を増やしてしまうことになりはしないだろうか。もしそうだとしたら、それでいいのだろうか。

繰り返すけれど、みんなはこれから社会に出ていろいろな体験をし、さまざまな判断を迫<sup>せま</sup>られることになる。そのためには手の届く範囲<sup>はんい</sup>の情報だけでなく、広く社会で起きていること、もっと言えば世界で起きていることにも、無縁<sup>むえん</sup>ではいられない。

しかし今の時代、あまりに多くの情報に囲まれているがゆえに、何をどう信じていいかを判断することがますます難しくなっている。フェイクニュースも地雷<sup>じらい</sup>のようにあちこちに埋<sup>う</sup>めこまれている。とはいえ、みな仕事や生活を抱<sup>か</sup>えて毎日が慌<sup>あわ</sup>ただしく流れるなかで、ひとつひとつの情報を吟味<sup>ぎんみ</sup>する時間などあるはずもない。

<sup>⑧</sup>そうした状況<sup>じょうきやう</sup>にどう向き合えばいいのか。少し前に話した\*ニューヨーク・タイムズの話は示唆<sup>しさ</sup>に富んでいると思う。自らフェイクニュースを流すトランプ大統領への不安からだろう、事実に基づく報道をする伝統的なメディアであるニューヨーク・タ

イムズの購買者数が増えているという話だ。(中略)トランプ大統領に不安を感じた人々は、ニューヨーク・タイムズを選んだ。いや、ニューヨーク・タイムズだけではないはずだ。それぞれがトランプ大統領への対抗措置のひとつとして、自分の信頼できるメディアを選んだのだと思う。

メディアとどうつきあうかを学ぶメディアリテラシーでは、メディアを疑えというスタンスから入るのが普通だと思う。ぼくの「メディアを信じるな」も、その延長線にあると言ってもいい。

でもネットにフェイクニュースがあふれる今の時代、自分の頭で考える材料を得るためにも、やはり事実に基づく伝統的なメディア、そのどれかとは接したほうがいいと思う。トランプ大統領のフェイクに不安を抱いた人が、その防衛手段としてニューヨーク・タイムズに戻ったように。

だからぼくはもう「メディアを信じるな」とは言わない。メディアに目もくれない若者をこれ以上増やすことにつながりかねないと思うと、それがいいことだとは思わないからだ。それよりは事実に基づく伝統的なメディアの中から信頼できるもの、あるいは比較的ましだと思ふものを選んで、読んだり見たりする、つまり「使う」ことを勧めたい。それは良質なメディアを応援し、質を高めることにもつながっていく。もちろんメディア自身も、「使う」に足る情報をきちんと提供できているか、不断の自己点検と努力を求められるの言うまでもない。

ニューヨーク・タイムズが出したイラク戦争をめぐる誤報の例でもわかるように、メディアも過ちを犯す。だからといって「信用できない」とメディアを毛嫌いして遠ざけるよりも、自分なりに使いこなせれば、そのほうがはるかに有益だ。外部の情報に触れないまま勝手な思いこみで世界を見ることほど、危ういことはないからだ。そしてそれは日々スマートフォンから多くの情報を得る際に、フェイクニュースにだまされない感度をみがく助けにもなるだろう。

もちろんメディアだけではない。学者や作家、あるいは記者や文化人などの中から信頼できる人を見つけて、その人たちのものの方を追うことは、自分の考える力を補強してくれるだろう。時間が許すならメディアを通さない\*一次情報にあたるのも役に立つ。さらに本を読むことは、必ずやあなたの血となり肉となるだろう。

そのうえで何が本当で、何が本質なのかを、最後は自分の頭で考えて判断してほしい。

真偽不明、玉石混交の情報があふれる今の時代、もしかしたら光のない暗い海をひとり船で進んでいるような心細い気持ちに襲われるかもしれない。しかし情報にどう接して、どう聞くのか、⑨自分なりの灯台を見つめる努力を続けていけば、必ずや生き抜いていけるはずだ。これからどんな時代があなたを待っているようにも。

(松原耕二『本質をつかむ聞く力』より)

※問題作成の都合上、原文の表記を一部改めたり、文章の一部を省略したりしたところがあります。

(注)

\* 荷担……味方すること。

\* 大本営発表……太平洋戦争中、軍の最高機関が国民に向けて発表した、戦況に関する情報。末期には、戦況が悪化しているにもかかわらず、優勢であるかのようなその発表をくり返した。

\* 言説……意見や説明。

\* ニューヨーク・タイムズ……アメリカで最も伝統ある新聞のひとつ。報じる内容が本当かどうか幾重にも確認を重ねる。

\* 一次情報……直接見たり、聞いたりして、自分で手に入れた情報のこと。

問一 —— ①「メディアはどれも偏って見える」とありますが、なぜですか。その理由として最も適当なものを次から選び、

記号で答えなさい。

ア メディアは、世論を動かそうとして意識的に大げさな表現を用いがちであるから。

イ テレビや新聞は、いろいろな法律や守るべきルールに従って事実を報道するものだから。

ウ 実際の情報をどうとらえるかを伝えるメディアには、特定の考えが表れるものだから。

エ メディアが伝えている多くの情報は、全体の事実の中の一部分に過ぎないものだから。

問二

—— ②「この問い」とありますが、どのような問いですか。その内容として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア メディアがどうしたら事実を正確に伝えられるか、という問い

イ メディアがただ事実を報じるだけでよいのか、という問い

ウ メディアが万人に受け入れられる方法は何か、という問い

エ メディアが社会に役立っていないのではないか、という問い

問三

—— ③「報道の仕事も同じだ」とありますが、医師の仕事と報道の仕事はどのような点で同じなのですか。その説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 医師が患者の意志を尊重して治療していくように、報道も、報道される側の立場や心情を考えて報じなければならぬ点

イ 医師が専門職として多くの症例の知識を必要とするように、報道も多くの情報を得ることで初めて正しい報道ができる点

ウ 医師が命を扱う職業として間違いが許されないように、報道も常に正確さが求められ、誤った情報を伝えることは許されない点

エ 医師が検査の結果を分析して患者に治療法を示す必要があるように、報道も情報を分析して今後を予測したり指摘したりする必要がある点

問四

—— ④『公正』とありますが、なぜ『』がついているのですか。その意図として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 報道にとって一番重要なことは、偏<sup>かたよ</sup>りのない『公正』なのだ<sup>と強調しようとする意図</sup>
- イ 報道機関ではあまり用いない、『公正』という特別な言葉を印象づけようとする意図
- ウ 厳密には辞書の意味の（公正）ではないが、筆者の考える『公正』のあり方を伝える意図
- エ 『公正』でない報道が多いことを批判している人の発言の引用であることを示す意図

問五

□ に当てはまる語として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア スピード感      イ 専門性      ウ 公平感      エ 多様性

問六

—— ⑤「でも最近、自分のなかでその思いが少し形を変えてきている」について、次の問いに答えなさい。

(1)

どのような思いからどのような思いに変わってきているのですか。次の文の（A）（B）にあてはまる言葉を本文中からそれぞれ四字以内でぬき出して答えなさい。

「メディアを（A）」という思いから「メディアを（B）」という思い」に変わってきている。

(2)

そのように思いが変わってきたのは、「若者にはどうすることをさげ、どうしてほしい」と筆者が考えたからですか。「若者には、くではなく、くほしいから。」という形で、四十字以上五十字以内で答えなさい。



問七

——⑥「二〇一一年の東日本大震災<sup>だいしんさい</sup>のころから、メディアは本当のことを伝えないと感じる人が増えている」とありますが、なぜそう感じるようになったのですか。その理由として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア テレビや新聞は裏付けをとって情報を流す使命をもつので、専門家もよくわかっていない放射能の分野については、はっきりとした説明を伝えることができなかったから。

イ 国民の不安をしずめようとして、テレビも新聞も政府から言われたとおりに、事実を隠<sup>かく</sup>して実際と異なる情報を流していただけだったから。

ウ ネットでは放射能が危険であるとはっきり述べているのに、テレビや新聞では様々な見方を提示しているだけで、専門家の意見は伝えていなかったから。

エ 放射能の人体への影響は外国の例からも明らかで、専門家も意見をくわしく国民に伝えるべきであったのに、あいまいな表現しかせずに、不安をおおる結果になったから。

問八

——⑦「じりじりとした思い」とありますが、この気持ちを具体的に説明している部分を、これよりあとの部分から十六字でぬき出して答えなさい。

問九

—— ⑧ 「そうした状況」とありますが、この状況の例として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 学校から課されたレポートについて、インターネットで調べて、書いてある文章をそのまま書き写して提出した。すると、ほかの生徒のレポートも同じような内容であった。

イ 友だちとラインをしていたら、遊びに行こうとさそわれた。迷っていてすぐに返事をしないでいたら「既読無視」ということで、グループから強制的に外された。

ウ テレビでは、津波警報が出された場合、かつては「できるだけ高い所に逃げてください」と冷静に呼びかけていた。しかし現在では「今すぐ逃げてください」と命令や断定の強い口調で伝えるようになった。

エ 地震直後、ライオンの画像とともに、「動物園からライオンが逃げた」という文がツイッターに投稿された。「友人に危険があつてはいけない」と思いすぐに投稿を拡散した人が多かったが、その結果、被災地はさらに混乱した。

問十

—— ⑨ 「自分なりの灯台」とありますが、どのようなことをたとえていますか。その説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 情報があふれる時代に、自分の考えのよりどころとなる、信頼できる新聞などのメディア

イ 暗い話題が多い時代に、明るく有益な情報を示してくれる親しい友人や家族

ウ 何が本当かわからない時代に、信用できない情報を削除してくれる機器や相談機関

エ フェイクニュースが多い時代に、メディアと距離をおいて自分を見つめるための時間

問十一 本文ではメディアとのつきあい方について述べられていましたが、次の二つの記事を読み比べ、あとの問いに答えなさい。

記事 A

ある中国人女性が大阪を旅行で訪れたときのことである。駅のエスカレーターに何の疑いもなく乗ったところ、周りの日本人から「冷たい視線」を感じたという。不思議に思った女性がガイドに聞いたところ、「日本ではエスカレーターに乗るときにはルールがある」と教えられたそうだ。そのルールとは、「エスカレーターには、片側に寄って乗る必要がある」ということだ。エスカレーターの片側をあけるのは、急いでいる人が、エスカレーターを歩けるようにするため、そうすることで大勢の乗客がスムーズに移動できているのだ。どこの国や地域にもその土地ならではの習慣がある。中国人女性が、利用者同士の思いやりを学んだように、他国を訪れる際には、その土地の智慧やマナーを知り、その文化にあつたふるまいをすることが重要である。

記事 B

駅のエスカレーターに乗る際に、関東では、左側に寄り右側をあけ、関西では逆に右側に寄り左側をあける。なぜ片側に寄るかというと、急いでいる人があいている側を歩行できるようにしようという配慮のためだ。こうした光景は日本全国どこでも見慣れたものになっている。しかし、そもそもエスカレーターは、立ち止まって利用することを基準に安全設計されており、鉄道各社は転倒などの危険を防止するために、歩行禁止を呼びかけている。利用者がこの呼びかけに賛同し、協力しなくては習慣は変えられない。以前、片側をあけるために壁側に寄りすぎて子どもがケガをする事故があつた。一見他人に配慮したマナーのように見えても、現実はずかちなわがままさを助長しているのではないか。

- ① A、Bの記事のどちらにも共通して話題にしていることは何ですか。十五字以上二十字以内で答えなさい。
- ② A、Bの記事は、①の話題に対してどのような意見を述べていますか。主張のちがいがわかるように、それぞれ十五字以上二十字以内で答えなさい。
- ③ A、Bの二つの記事を読み、どのような対策が考えられますか。あなたの考えを書きなさい。

二 あとの問いに答えなさい。

問一 次の文章の——部について、敬語の用い方として適当でないものを四つ選び、記号で答えたうえで、正しい表現に直しなさい。

現在大学に通っている人物が小学校の同窓会に出席し、当時の先生と再会する場面

生徒 先生、小学校の時は生意気なことばかり言つて、先生を困らせてしまい、ア申し訳ありませんでした。

先生 そんなこと、気にしないでいいんだよ。

生徒 私が中学生になつてからも、先生は私のことを気にかけてくださいましたね。わざわざ中学校までイお見えになつて、展覧会をウ拝見してくださり、とてもうれしかったのをよく覚えています。

先生 よく覚えてるね。なつかしいなあ。ところでお母さまは、まだ絵をエおかきしているのかな。

生徒 はい。オお母さんは、今度個展を開く予定です。

先生 それはいいね。必ず、カうかがうことにするよ。

生徒 それは楽しみです。

……

先生 おいしそうな料理が運ばれてきましたね。

生徒 冷めないうちにキいただきました。

問二 次の□部がかかっている言葉として最も適当なものを次の——アからエの中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

① 彼女のことなら、きつと今回もア平気だろうというイ考えから、ウ社長も仕事をエ任せたのだろう。

② 彼は、いすにア座つて海をイながめている彼女に、ウやさしくエ話しかけた。

問三 次の短文について、——部の言葉の使い方として適当でないものを二つ選び、記号で答えなさい。

ア 卒業式の最中におながが鳴ってしまい、顔から火が出るほどの恥ずかしさを感じた。

イ 友人に幸運がまいこんだらしい。彼は日ごろから周りの人に親切に接していた。まさに情けは人のためならずだ。

ウ 全国大会の常連校でいつも優勝争いをするA中学校とB中学校はいわゆるどんぐりの背くらべだ。

エ 彼のような有能な人物に、こんな単純作業をさせるなんて、役不足で申し訳ない。

オ 急に城を建てろと言われても、そんなこと一朝一夕でできることではないが、それをやってのけた武将がいた。

カ 彼女と私は、どんなことでも感じたことをすぐに口に出して伝え合うことのできる、以心伝心が可能な仲だ。

問四 次の各文について、文の意味を変えないように、——部を書き直しなさい。

① 小学校の時に特に楽しみだったことは、給食やボールで遊ぶことだ。

② 妹の長所は、だれにでも元気にあいさつをする。

問五 次に挙げた言葉を国語辞典に載せるとき、あなたならどのような説明書きをつけますか。考えて答えなさい。

《例》 【国語】……(それぞれの国で使っている、その国の共通のことば。)

① 【笑う】……( )

② 【左】……( )

三 次の①から⑧の——部のカタカナを漢字になおし、⑨から⑫の——部の漢字の読み方をひらがなで書きなさい。

- ① 絶好のキカイに恵まれる。
- ② 四十七ページをサンショウしてください。
- ③ 江戸時代のコバンが土蔵から出てきた。
- ④ スポーツにおいて、シヤが広いことは武器だ。
- ⑤ 夏山でもソウビには念を入れる。
- ⑥ この部屋のヤチンは比較的安い。
- ⑦ 試験に合格し、ウチヨウテンになる。
- ⑧ テアみのマフラーを今日も巻いてきました。
- ⑨ さあ選手たちよ、底力を見せよう。
- ⑩ 布の境目がはっきりしない。
- ⑪ 泳ぐ際の心得を胸に刻む。
- ⑫ 体裁を気にしては、何も始まらない。